

## 被災地の声と願いにもとづく復旧・復興に全力をあげ、労働者・国民のいのちや暮らしを何よりも大切にする政治を実現し、教育政策の抜本的転換を

子どもたちのいのちをはぐくみ、その成長と発達を保障する教育活動に全力であたられている教職員のみなさん。

未曾有の大災害となった東日本大震災から 3 か月余が経過しました。2 万 3000 人を超える死者・行方不明者、8 万人をはるかに超える避難者（2011 年 6 月 13 日現在）など、極めて深刻な状況にあります。2 万人を超える子どもたちが住み慣れた被災地を離れての生活を余儀なくされるとともに、本来の教育が保障されない事態が続いています。福島原発事故は、被災地のみならず、多くの国民に怒りと不安を広げています。子どもたち、住民のいのちと健康を最優先にしたとりくみが求められており、被災地、被災者のおかれている現実を直視し、その声と願いに沿った復旧・復興こそ重要です。日本国憲法の精神をいかんなく発揮し、憲法が保障する基本的人権の擁護、地方自治原則に沿った救援、復旧・復興支援にとりくみましょう。

一方、被災者はもちろん、労働者・国民のいのちや暮らしに責任を持つべき政治の現状は圧倒的な国民から不信の目が向けられる惨憺たる状況にあります。復旧・復興財源を口実にして労働者・国民の負担増をねらう動き、復興財源も口実にした公務労働者に対する賃金引き下げ攻撃、甚大な被害を逆手にとるようにすすめられる憲法改悪の動きなどいずれも許しがたいものです。「すべての子どもの教育を受ける権利を保障する」ために導入された公立高校の授業料不徴収・私立学校等への就学支援金を「無駄遣い」とする攻撃などは、国民の願いに背を向けるものでしかありません。被災地をはじめ、労働者・国民の苦しみを尻目に繰り広げられる「政争」や悪政推進をごまかす「大連立」の動きなどは、私たちの願いとは無縁のものです。

同時に、被災地への救援、復興支援をはじめ、悪政の推進を許さない労働者・国民のエネルギーがさまざまな場面で発揮されていることもこの間の特徴となっています。全教・教組共闘が呼びかけた被災地への救援ボランティアに参加した延べ 700 人の仲間は、被災地・被災者と一体となった活動を展開し、各組織の機関紙などを通じて、その感動や教訓が全国に広がっています。公務員賃金削減を許さない運動が、短期間に職場の怒りを広げ、職場と地域での運動が「公務員賃金を一方的に引き下げる政府のやり方はおかしいのではないか」という世論を作り上げてきました。閣議決定・国会への法案提出が強行されたもとでも「その行方は混とん」という状況を生み出しています。福島原発事故に対する国民の怒りは、その将来不安とも重なって「安全神話に固執した、原発頼みのエネルギー政策の転換」を圧倒的な国民世論に押し上げ、ドイツやスイス、イタリアでの「脱原発」政策への転換など国際的な影響も生まれています。

### 全国の学校で奮闘する教職員のみなさん

東日本大震災は、自然災害の恐ろしさをいっそう深刻な被害にしてしまった「構造改革政治」の矛盾を圧倒的な国民の目の前に浮き彫りにしました。『効率』『合理性』のもとで強行された自治体合併は、地域と住民の暮らしに何をもたらしたのか、「公的な医療機関の相次ぐ廃止と統合は、地域の医療を奪い、救えるいのちさえ奪ってしまったことと無関係か」「住民合意を欠いた学校統廃合や通学区域の弾力化・自由化は、教育にとって不可欠の学校と地域の関係を遠ざけてはいないか」などの声は、大震災の教訓を被災地のみならず、全国に生かすことの重要性を教えています。

「教育においては子どもが一番、教育をどうするかは父母、国民が決めること」、この間の運動で確かめられてきたことを生かし、子どもたちのいのちを守り、はぐくむ教育の任務にふさわしい学校への努力を強めましょう。学校と教育の役割が問われている今だからこそ、学校づくり、教育づくりのとりくみを広げましょう。

国民の声と願いを生かす政治の実現と憲法・子どもの権利条約に立脚した教育を国民の力で実現するとりくみは、文字通り一体のものです。職場と地域から、これまでの枠を超えた対話と共同をすすめ、労働者・国民のいのちや暮らしを何よりも大切にする政治の実現、憲法と国際基準にもとづく労働基本権確立、国の責任による少人数学級のさらなる前進など子どもたちを大切にする教育政策の抜本的転換をめざす運動を前進させましょう。全国の教職員のみなさんの奮闘をこころより呼びかけます。